

余呉地域振興の全体像（案）

- 本資料は確定版ではありません（検討段階の内容であり、一部イメージを含みます）
- 今後、余呉地域振興にかかる検討プロジェクトチームや余呉まちづくり研究会等の意見を踏まえ、とりまとめを行います。

■ 現況 | 関連計画、余呉地域をとりまく動向

【滋賀県計画】シガリズム観光振興ビジョン<令和4年3月策定>

【基本方針】 観光地を単に巡るだけでなく、滋賀の自然に触れ、滋賀に暮らす人々と出会い、交流することで、ゆっくり、ていねいに暮らしてきた**滋賀の時間の流れ**、**暮らしに息づく生活文化**、**営み**、**歴史**、**伝統**などを、**より深く体験・体感し、心のリズムを整える**ことができる新たなツーリズムを「シガリズム」として推進します。「シガリズム」の推進にあたっては、特に以下の3つのことを大切にしていきます

- ① ゆっくり、ていねいに暮らしてきた**滋賀の時間の流れ**や暮らしの**リズム**（滋賀の**リズム**）を大切にします。
- ② 県民の環境意識や三方よし、忘己利他などの、**滋賀ならではの理念**（滋賀の**イズム**）を大切にします。
- ③ 「琵琶湖」を切り口とした**2030年**の持続可能社会へ向けた目標（**ゴール**）である、**マザーレイクゴールズ**（**MLGs**）の考え方を大切にします。



【施策の柱・重点分野】

- 以下のとおり、5つの柱が示されている。また、5つの柱に基づく**6つの重点分野**として、
- ① **体験・交流観光**（エコツーリズム、アウトドア体験、収穫・料理体験等）、
 - ② **ピワイチ、ピワイチ・プラス**（サイクリング環境整備、デジタルスタンプリー支援等）、
 - ③ **教育旅行**（自然・環境学習体験、歴史・文化体験、農林水産業体験等）、
 - ④ **コンベンション、イベント等**、⑤ **訪日外国人旅行（インバウンド）**、⑥ **土産**が掲げられている。

| 施策の柱 | 内容 | 県の主な施策例 |
|---------------------------|---|---|
| 1 新型コロナウイルス感染症からの着実な回復 | <ul style="list-style-type: none"> 回復フェーズを「県内・近隣回復期」、「国内旅行回復期」、「インバウンド回復期」の3段階に分け施策を柔軟に展開 「滋賀県における『安全安心な観光』に向けた対策手引き」や「業種別感染予防ガイドライン」等の一層の浸透や定着等を推進 県内観光周遊を促進するキャンペーンなど、観光需要を喚起する取組を推進 | <ul style="list-style-type: none"> 安全・安心な観光を推進するための感染拡大防止対策 観光需要の喚起 等 |
| 2 魅力向上と創出 | <ul style="list-style-type: none"> 滋賀の魅力体験・体感できる地域資源の掘り起こしや魅力分析を行い、観光素材として磨き上げて、テーマ（自然、歴史、文化、アウトドア等）に沿って観光コンテンツや周遊ルート・手段等を創出 琵琶湖やそれを取り巻く自然や歴史、産業など、滋賀ならではの素材を活用するとともに、琵琶湖版SDGsであるMLGsの視点を取り入れた探求型学習を行えるコンテンツを創出 多様な主体の連携強化や事業者の参入を促し、新たな事業機会の提供等を通じて、琵琶湖や地域の観光資源を活用した滋賀らしい観光の創出を推進 | <ul style="list-style-type: none"> 魅力ある体験・交流型コンテンツの創出 ピワイチ、ピワイチ・プラスの取組強化 滋賀らしい教育旅行コンテンツの創出 等 |
| 3 受入環境整備 | <ul style="list-style-type: none"> 地域の実情に応じた多言語案内、デジタルサイネージの整備、フリーWi-Fiの整備、キャッシュレス対応等を促進 観光地と交通事業者等の連携による二次交通対策を推進 誰もが楽しめるユニバーサルツーリズムに向けた環境整備等を推進 観光産業における人材の確保、育成等や県全体で来訪者を迎えられるような「おもてなし」の醸成 観光客に対し、観光地でのルール・マナー等について周知・啓発 | <ul style="list-style-type: none"> 誰もが楽しめる観光地に向けた安全安心で快適な環境整備 「おもてなし」力の向上や意識の醸成 等 |
| 4 魅力の発信 | <ul style="list-style-type: none"> プロモーションを「旅マエ（旅行前）」、「旅ナカ（旅行中）」、「旅アト（旅行後）」のフェーズに分け、ターゲットごとに最適な内容やタイミングで情報発信を実施 「ここ滋賀」をはじめとする情報発信拠点を最大限活用し、効果的な情報発信に取り組むとともに、滋賀への誘客を促進 県内外の大型プロジェクトの開催等に着目したプロモーションや、彦根城の世界遺産登録に向けた取組を各関係機関と連携して実施 | <ul style="list-style-type: none"> 情報発信拠点機能の最大化（ここ滋賀、そこ滋賀、滋賀県誘客経済促進センター） 戦略的なプロモーションの強化 ロケツーリズムの推進 等 |
| 5 推進体制強化 | <ul style="list-style-type: none"> データの活用等を通じて、新たなビジネスや稼ぐモデルを創出し、高付加価値化を実現できる、地域の観光産業をリードする専門人材の育成 多業種間の連携を促し、広域観光周遊を促進するため、観光関連団体の連携機能の強化を図り、情報共有や共同事業等を推進 | <ul style="list-style-type: none"> 観光人材の育成、活性化 観光関連団体等の連携強化 等 |

※上記計画の他、滋賀県では、滋賀県総務部市町振興課及び総合政策部企画調整課がプロジェクトチームを設置し、北部の日(地域振興)を検討中。進捗に応じて整合を図る。

【滋賀県動向】淀川源流の森活用・保全検討委員会

令和4年度より、滋賀県（自然環境保全課）が事務局となり、森林の保全・利活用にむけた検討を推進している。

【主な検討事項】

- ・活用区域と保護区域の区分け
- ・活用方法、保護法方法の検討
- ・エコツーリズムへの活用検討等

【その他】広域連携の取り組み

【日本遺産（柳ヶ瀬トンネル等）による連携】

日本遺産「海を越えた鉄道～世界へつながる鉄道のキセキ～」を切り口とし、**長浜市・敦賀市・南越前町で連携した取組みを展開**（観光連携協議会、ロゴマーク制作、マップ作製、トンネルカード等）。

また、今後の道路網の充実・改善等により、**産業振興や観光振興（広域周遊等）等をはじめとした多分野において滋賀県（長浜市）と福井県（敦賀市・南越前町等）との連携強化の機運が高まっている。**



鉄道遺産回廊ロゴマーク



トンネルカード

【ピワイチ・プラス】

滋賀県では、2017年に「ピワイチ推進室」を設置し、琵琶湖を一周する「ピワイチツーリズム」を推進している。

このピワイチをベースに、県内全域でサイクリングを楽しむことができるよう、テーマで巡る新たな「ピワイチ・プラス」コースが設定された。

本コースには、**余呉湖を含むサイクリングコース「余呉湖の伝説と戦国ロマンに浸る旅」**が設定されている。このため、**琵琶湖からサイクリングで余呉湖を訪れるサイクリストが一定数見られている。**



日本遺産「海を越えた鉄道～世界へつながる鉄道のキセキ～」構成資産の位置図

余呉湖の伝説と戦国ロマンに浸る旅



現況 | 余呉地域の基礎情報整理

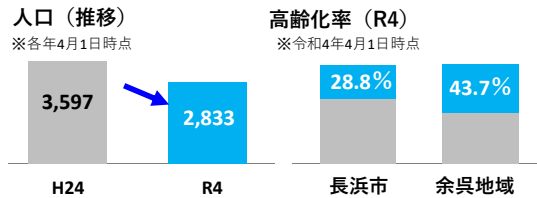
環境等

○豊富な緑（旧町域の9割が森林）と清流（水源地域）が流れる自然豊かな地域

○関西以西唯一の豪雪地帯

人口・高齢化率

○人口は2,833人。10年間で約79%に減少している。
○高齢化率は43.7%であり、長浜市の中でも高齢化率が高い。



道路ネットワーク・交通

○国道365号（国道8号）が地域の南北を縦貫しており、広域からの主なアクセス動線となっている。県道284号杉本余呉線、県道285号中河内木之本線は地域内主要動線であり、沿道に公共施設が立地。

○地域内には、木ノ本駅と『中河内』や『洞寿院』を結ぶ路線バスが運行している（運行本数は1～2時間に1本程度）。

○JR西日本北陸本線「余呉駅」が位置し、東海道新幹線「米原駅」まで30分でアクセスが可能。

観光・地域資源等

○余呉湖には、余呉地域の観光客の約4割が訪れている。余呉湖は本地域において比較的集客力が高い。

| | 余呉地域全体 | 余呉湖 | 余呉湖観光館 | ウッディパル余呉 | 妙理の里 |
|-----------|---------|----------------|---------------|----------------|--------------|
| 観光客数 (R3) | 209,700 | 76,800 (36.6%) | 45,600(21.7%) | 38,500 (18.3%) | 4,682 (2.2%) |

○豪雪地ならではの歴史・文化や、豊かな緑・美しい水から得られる恵み（米・野菜・山菜・鮎等）やそれらを活用した加工商品はあるものの、広域から集客（差別化）ができる地域資源は現時点では乏しく、広域から集客できる『目的地化』にはなっていない状況である。

○地域内には魅力的な地域資源や歴史・文化が存在するが、それらをつなぐ余呉地域を専門とした案内パンフレットやHPが無い。また、観光客や地域産業に関する統計情報等は乏しい等、情報発信・情報収集（マーケティング）に改善の余地がある。

公共施設

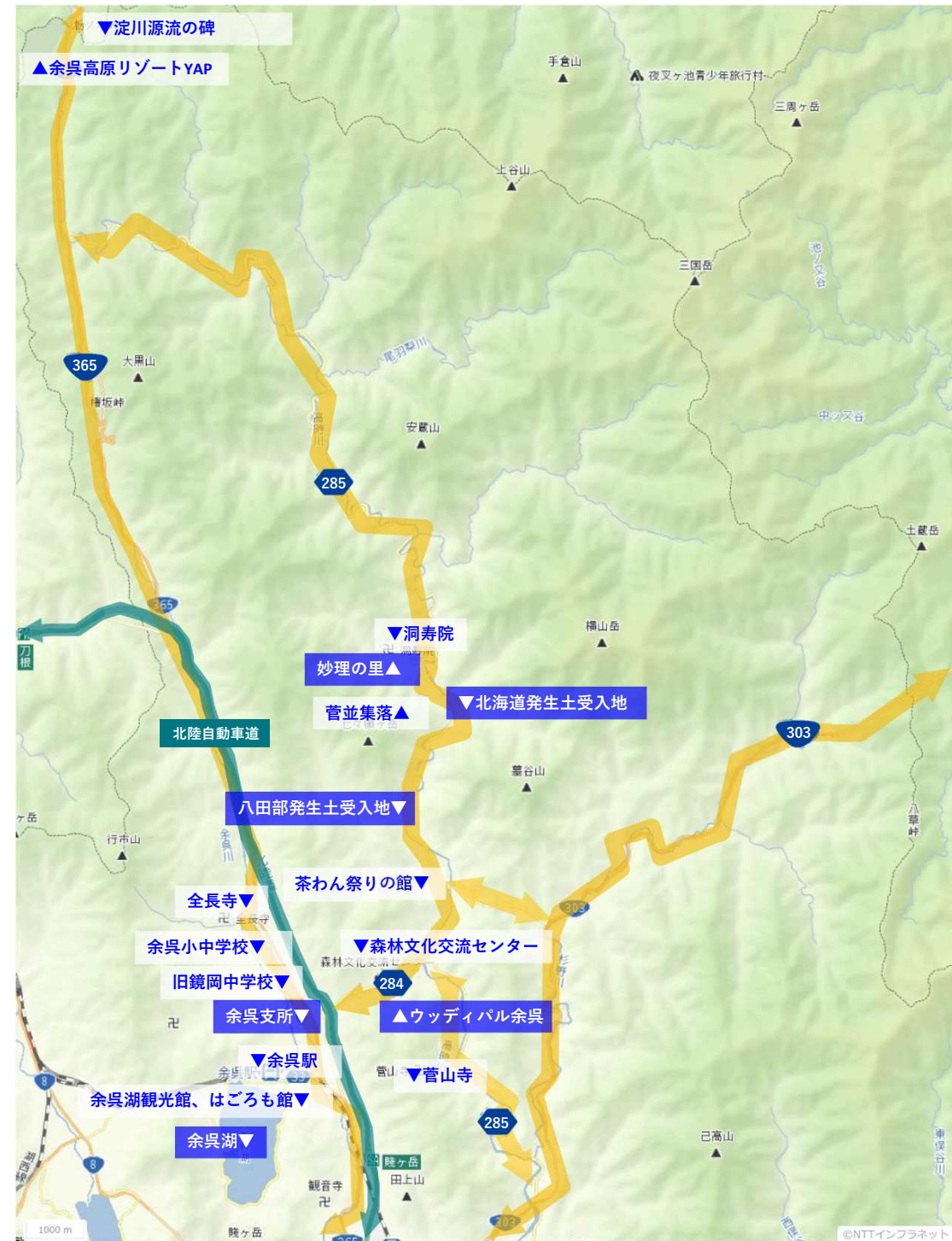
○余呉支所は、地域の玄関口に位置しており、地域の中心的な施設となっている。また、公共施設再編による維持管理運営の合理化や新たな機能導入の検討が行われている。

○ウッディパル余呉、妙理の里、余呉湖観光館・はごろも館の建物の一部は老朽化が進行している。

地域振興の動向（余呉まちづくり研究会でのプロジェクト）

○「余呉まちづくり研究会」が主体的に、地域資源を活かした以下のプロジェクトを推進している。

| プロジェクト名 | フィールド | プロジェクト名 | フィールド |
|----------------|-----------|---------------|-----------|
| ①北海道プロジェクト | 八田部発生土受入地 | ④森林活用プロジェクト | 事業用地・残存山林 |
| | 北海道発生土受入地 | ⑤湖畔プロジェクト | 余呉湖 |
| ②日向ぼっこプロジェクト | 余呉支所 | ⑥歴史遺産活用プロジェクト | — |
| ③ふるさと絵屏風プロジェクト | — | ⑦道路網プロジェクト | (県道整備) |



※青で塗りつぶしている施設等は余呉地域の拠点的な施設を示す

■ 現況 | 各拠点の位置づけ

| 拠点等の名称 | | まち研意見等 ※ | | 長浜市意向 | 特性・動向等 | 位置づけ（目標像） |
|--------|-----------|---|--|---|---|---|
| | | 方向性 | （参考）詳細な取組み | | | |
| ① | 余呉支所 | <ul style="list-style-type: none"> 生活サービスや地域活動の場を集め「小さな拠点」を形成 高齢者や地域が必要とする生活・福祉サービスの充実 子育て支援機能の充実 廃校の活用（旧鏡岡中学校） | 運営組織の設立/公共サービス施設/診療所/GS/子育て世代の交流/「余呉まちづくり研究会」における学習会等の継続/子供カフェ/図書館カフェ/マルシェの開催・キッチンカー等の移動販売車による買い物弱者支援/コミュニティ創出/見守り活動/道の駅（体験型物販施設）の整備/ATMの集約 | <ul style="list-style-type: none"> 旧余呉支所庁舎の取り壊し、ホールや図書室（一部）等の公共施設の再編を推進。 「道の駅」のような施設や周辺整備を推進。オープンスペース等の地域の憩いの場等も確保。 | <ul style="list-style-type: none"> 公共公益機能が集約立地しており、地域の中心的な施設であった。 国道365号（国道8号）沿道に位置し、余呉地域の玄関口に位置することから、ゲートウェイ機能（案内・誘導、休憩（トイレ、駐車場）や特産品の提供等）が期待される。 廃校は、避難施設（平常時は、宿泊施設）としての活用が望まれる。 | <h3>生活拠点×ゲートウェイ</h3> <ul style="list-style-type: none"> 余呉地域の中心地として、地域住民が生活する上での利便性やコミュニティの維持・創出を図る生活拠点。 観光客への地域内観光施設への案内・誘導等を行うゲートウェイ機能も備える。 長浜市～敦賀市・南越前市方面を往来する来訪者に利便を提供しつつ、消費促進を促す。 |
| ② | 余呉湖 | <ul style="list-style-type: none"> 自然環境保全活動を通じた住民と来訪者の交流の場、住民の活躍の場の形成 交流人口拡大にむけたイベント利用の推進 キャンプ場運営や湖面活用等、他施設との棲み分けを考慮した観光拠点づくり | サワオグルマ/桜・アジサイ・天女像周辺、埋没林などの環境保全活動/余呉健康マラソン/余呉湖まつり/余呉湖ふれあいビアガーデン/桜まつり（観光船遊覧）/ホテルを楽しむタベ等のイベントの取組み/余呉湖ダムカレーの開発/余呉湖周辺でのキャンプ場運営及び湖面活用に向けた取組み/余呉湖を楽しめる空間づくり/ロゲイニング/トレイルランコースとしての周辺山地の環境整備/はごろも館の活用（コミュニティールーム、レンタルオフィス整備） | <ul style="list-style-type: none"> 国民宿舎余呉湖荘の跡地活用 余呉湖周辺の観光誘客に向けた利便性施設の整備を推進。 案内板、遊歩道、パンフレット等の整備。 | <ul style="list-style-type: none"> 本地域に訪れる観光客の約4割が余呉湖に訪れており、本地域において高い集客力を有する。 現在、コンテナを活用した滞在施設の計画が推進されている。 交通の便が地域内でも比較的良い。 余呉湖観光館の老朽化が進行。 周辺森林にはハイキングコースが設定されている。 | <h3>観光・交流拠点</h3> <ul style="list-style-type: none"> 美しい自然景観や湖と周囲の山々で創られた水と緑の空間を活かしたアクティビティの充実により、広域からの集客を推進。また、訪れた方との交流を通じて地域の魅力を発信 ゲートウェイとなる余呉支所との連携により、余呉地域内の周遊を促進 |
| ③ | ウッディバル余呉 | <ul style="list-style-type: none"> 憩いと交流の場を提供する地域活性化施設として、維持・保全を図り、有効活用する。 地域内の観光施設との連携による交流人口拡大 | レクリエーション施設整備（アスレチック・キャンプ場）/余呉収穫祭/ロゲイニング | <ul style="list-style-type: none"> 老朽化した施設の改修やそれを機とした民営化の推進。 | <ul style="list-style-type: none"> キャンプに加え、アスレチックや、テニス、ゴルフ等の様々なレクリエーション体験が可能。 森林学習等の体験が可能な森林文化交流センターが立地。地域内で唯一大浴場を備えている。 施設の老朽化が進行。 他類似施設との棲み分けの必要性。 | <h3>レクリエーション拠点</h3> <ul style="list-style-type: none"> キャンプ等とあわせてレクリエーションの場を提供（日帰り、短期滞在向け、キャンプ初心者向け） 他施設と連携し、地域内周遊の魅力向上や観光客の消費を促進 |
| ④ | 八田部発生土受入地 | <ul style="list-style-type: none"> 地域特産品の開発・定着化等の振興策を推進 <p>※現在は、キャンプ場としての利活用を検討</p> | 特産品の発掘・栽培（エゴマ）/ブランディングと情報発信/協力企業・他観光施設等との連携 | <ul style="list-style-type: none"> 民間と連携した利活用の推進。 親水空間の整備推進。 | <ul style="list-style-type: none"> キャンプ場利用を主とした自然体験サービスを提供する土地利用の検討が推進。 敷地に沿って高時川が流れており、高時川は釣り人も見られる。 他類似施設との棲み分けの必要性。 当初はエゴマの栽培等の土地利用を検討。 | <h3>自然体験拠点</h3> <ul style="list-style-type: none"> 豊富な緑・美しい水に囲まれた空間を活かし、キャンプ等を通じた上質な自然体験を提供 他施設と連携し、地域内周遊の魅力向上や観光客の消費を促進 |
| ⑤ | 北海道発生土受入地 | <ul style="list-style-type: none"> 菅並集落や周辺施設等と連携した体制の構築による交流人口拡大 | 隣接する菅並集落の活用（余呉型民家の活用（農泊、カフェ等））/空き家の整備によるレンタル利用/週末移住/季節限定移住の支援/イベント開催/重要伝統的建造物群保存地区の指定に関する取組み等の支援 | <ul style="list-style-type: none"> 水源地域の安全・安心機能の確保にむけた防災ヘリポートの検討が必要。 護岸空間の推進。 | <ul style="list-style-type: none"> 森林活用の検討を進める丹生ダム事業用地及び周辺への玄関口に位置する。 伝統的古民家が立ち並ぶ「菅並集落」が近接立地。 敷地に沿って高時川が流れている。 | <h3>森林散策ゲートウェイ×生活文化発信拠点</h3> <ul style="list-style-type: none"> 余呉地域の奥地へハイキング等に行く人達の出発拠点（駐車場、トイレ、情報収集・発信の場） 菅並集落の景観に配慮しつつ、生活文化の発信や集落の生活利便及び安全安心への寄与を図る。 |
| ⑥ | 妙理の里 | <ul style="list-style-type: none"> 憩いと交流の場を提供する地域活性化施設として、維持・保全を図り、有効活用する。 地域内の観光施設との連携による交流人口拡大 | もみじの植栽/企業・他観光施設等との連携 | <ul style="list-style-type: none"> 老朽化した施設の改修やそれを機とした民営化の推進。 | <ul style="list-style-type: none"> 施設の老朽化が進行。 親水空間が充実しており、また森林やダム関連整備箇所へのアクセスが容易。 地域の奥地に立地。動線（道路ネットワーク）の終点に位置することから、当施設の利用を目的とする来訪者以外の立ち寄りは乏しい。 他類似施設との棲み分けの必要性。 | <h3>滞在型学習体験拠点</h3> <ul style="list-style-type: none"> キャンプ等とあわせて、季節ごとの川と山の体験学習の場を提供（中期滞在、長期滞在向け） ダム関連整備箇所（未利用）他施設と連携し、地域内周遊の魅力向上や観光客の消費を促進 |

■ 地域及び各拠点等の課題と地域振興の基本方針

◆ 余呉地域を取り巻く動向・基礎情報を踏まえた課題

| | 現状・動向 | 課題 |
|-------|--|---|
| 計画・動向 | 地域の持続性確保に向けた産業振興や観光振興（体験、情報発信等）等をはじめとした各種方針が示されている。 共通したテーマ（サイクリング、日本遺産等）に基づき、広域の連携が行われている。また、道路網の充実により敦賀市・南越前市等との連携の機運が高まっている。 | ・ 既存公共施設の有効活用（あり方の検討） ・ 地域資源を活用した魅力の開発、情報発信・受入れ体制等の充実 ・ 広域と連携した集客・消費の拡大 |
| 取組み | 様々なプロジェクトが並行して推進されている。人口減少・高齢化により、リソース（人・金・モノ）に限りがあるなかで、進める必要がある。 | 投資効果の最大化や各取組みの相乗効果発揮にむけた 統一的な戦略（コンセプト）の策定 |
| 地域資源 | 豪雪地ならではの文化、豊富な自然やその恵み（農作物等）はあるものの単体で広域からの集客は難しく、差別化の点で改善の余地がある。 現在、地域の生活文化等の継承にむけた絵屏風作成や特産品開発等が推進されている。 | 上記コンセプトと連携した 地域資源の磨き上げや余呉地域のブランディング推進 |
| 情報発信 | 余呉地域の魅力、観光施設やイベントを発信する情報媒体が乏しい | 情報発信機能の強化 |
| 移動の脚 | 地域内は路線バスが運行している（1～2時間に1本程度）が、移動の利便性確保において改善の余地がある。 | 各拠点を含む地域の周遊促進や、拠点間の連携促進にむけた 移動手段の確保 |
| 情報基盤 | 余呉地域を対象とした地域産業や観光等に係る各種統計データが乏しく、改善の余地がある。 | 取組みの評価・改善に向けた 各種統計データ（例：観光客等の属性・行動特性・ニーズ等）の蓄積・利活用推進 |

◆ 各拠点等の位置づけ（目標）実現にむけた課題

| 拠点名 | 位置づけ | 位置づけ実現にむけた課題 |
|-------------|-------------------------|---|
| ① 余呉支所 | 生活拠点× ゲートウェイ | ・ 公共施設の再編・統合を機とした 新たな機能導入による「小さな拠点」の形成 ・ ゲートウェイ機能（地域内観光施設への案内・誘導等）の導入 |
| ② 余呉湖 | 観光・交流拠点 | ・ 余呉湖観光館の 改修等を通じた機能向上 （拠点の位置づけに対応） ・ 観光客の 受入れ環境の充実 （駐車場、トイレ） ・ 看板やパンフレット等、 案内・誘導の充実 |
| ③ ウッディパル余呉 | レクリエーション拠点 | ・ 施設の 改修等を通じた機能向上 （拠点の位置づけに対応） ・ 地域連携機能（他施設との連携による相乗効果発揮等）の強化 |
| ④ 八田部発生土受入地 | 自然体験拠点 | ・ 水と触れ合う場（親水性）の確保（護岸整備を含む） ・ 地域連携機能（他施設との連携による相乗効果発揮等）の強化 |
| ⑤ 北海道発生土受入地 | 森林散策ゲートウェイ× 生活文化発信拠点 | ・ 森林散策の発着地点として必要な機能 （トイレ・駐車場・手洗い・休憩スペース等）の整備 ・ 地域活動の場、地域の安全・安心確保 に必要な機能の整備 ・ 河畔及び森林等の案内誘導等の充実 |
| ⑥ 妙理の里 | 滞在型学習体験拠点 | ・ 施設の 改修等を通じた機能向上 （拠点の位置づけに対応） ・ 地域連携機能（他施設との連携による相乗効果発揮等）の強化 |

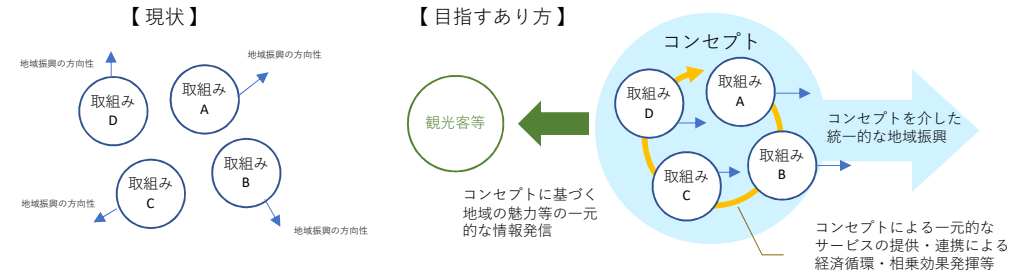
◆ 地域振興の基本方針

① コンセプト策定と連携した地域資源のブランディング & 発信

コンセプトでつなぐ

情報発信でつなぐ

- 絵屏風の作成等を通じ、地域資源の発掘・磨き上げや他地域との差別化を図る。
- 上記実施にあたっては、地域振興の戦略（コンセプト）を策定し、投資効果の最大化（地域内の経済循環）や各取組みの相乗効果を創出する。その際は、広域（敦賀市、南越前市）との連携も念頭に置く。
- 地域の魅力や観光施設・イベント情報を適切に観光客等に伝えるため、余呉地域を対象とするホームページや観光案内パンフレットの作成等、情報発信力の強化を図る。

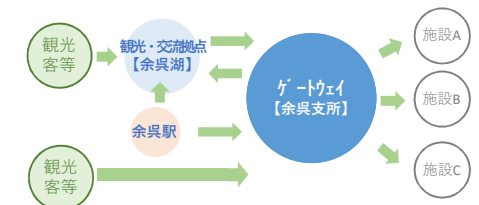


② 「小さな拠点」へのゲートウェイ機能の導入

ゲートウェイでつなぐ

- 公共施設再編等と調整を図りながら小さな拠点を形成しつつ、情報発信・案内を行い地域内観光施設やイベントへ誘導を図るゲートウェイ機能を導入する。
- 物販施設は、地域の特産品の供給可能数量を踏まえ、持続性が確保できるものとする（必要最小限）。
- 観光・交流拠点の位置づけとして余呉湖やJR余呉駅と連携し、情報発信、案内・誘導を行う。
- 上記機能の適切な運営にむけて人材育成・組織形成（DMO・地域商社等）を推進する。

【余呉地域のゲートウェイの考え方】



③ 各拠点間の連携促進と必要な環境整備の推進

施設機能でつなぐ

モビリティでつなぐ

- 他施設との差別化を図りながら、各拠点の位置づけに応じた施設機能及び地域連携機能（他施設との連携による相乗効果発揮等）を強化する。また、拠点施設以外の公共施設（茶碗祭りの館や余呉湖観光館）についても、連携等を念頭におきながら有効活用を図る。
- 地域周遊や各拠点の機能連携を推進しつつ、住民の移動の利便性向上を図るため、レンタサイクルやグリーンスローモビリティを導入等を推進する。また、自転車による地域周遊促進やピワイチとの連携促進を図るため、自転車走行環境の充実を図る。

④ 各種データの蓄積・利活用の推進

データでつなぐ

- 取組みの評価・改善に向けた各種統計データ（観光客等の属性・行動特性・ニーズ等）の蓄積・利活用推進を図る。
- このため、各拠点の運営にあたっては、利用記録等を適切に記録する。これらを活かし、継続的に顧客ニーズへの対応・ニーズに応じた改善を図り、地域と観光客等をつなげ、地域周遊を促す。

■ 地域振興の全体像（目指す姿）及び必要なハード整備・ソフト施策の一例

◆ 地域振興の全体像（目指す将来像）



※本資料はイメージを示しており、今後の検討により変更となります。

◆ 基本方針・全体像の実現（各拠点の連携）に必要な想定されるハード整備・ソフト施策の一例

| 拠点名 | P6基本方針との関連 | | 想定されるハード整備・ソフト施策の一例 (黒字：まち研・長浜市意向 青字：提案) | |
|------|--------------------------|---|---|---|
| | NO. | 内容 | ハード整備 | ソフト施策 |
| 地域全体 | ① | コンセプト策定、地域資源のブランディング & 情報発信 | — | <ul style="list-style-type: none"> ・地域振興のコンセプト策定 ・絵屏風作成や特産品開発と連携した地域資源の磨き上げ ・余呉地域の広報戦略及び情報発信媒体の作成 ・余呉湖観光館や余呉駅での情報発信の充実 |
| | ③ | 各拠点の機能連携・地域周遊の促進 | <ul style="list-style-type: none"> ・グリーンスローモビリティ等の導入 ・各拠点へのレンタサイクル貸出・返却窓口設置、サイクリングラックの設置 | <ul style="list-style-type: none"> ・茶わん祭りの館と周辺他施設の機能補完・連携 ・機能連携にぎわい形成軸の環境整備（看板・景観・植栽、サイクリングロード整備等） ・ツアー開発（体験、森林散策や淀川の源流碑見学、広域ツアー等） |
| | ④ | データの収集・利活用 | — | <ul style="list-style-type: none"> ・余呉全体の観光客、施設利用者データの収集・利活用（マーケティング） ・キャンプ場等の総合受付サイト整備（顧客情報の一元管理） |
| | ② | 小さな拠点の形成、ゲートウェイ機能の導入 | <ul style="list-style-type: none"> ・地域交流施設・空間（オープンスペース）の整備 ・休憩機能・特産品販売や軽食提供機能を備えた観光案内所整備 | <ul style="list-style-type: none"> ・日用品・食品（キャンプ食材を含む）の販売機能 ・上記輸送機能（ドローンや移動販売車）の導入 ・運営組織（DMO・地域商社等）の設立・人材育成 |
| ② | 余呉湖（観光・交流拠点） | <ul style="list-style-type: none"> ・展望台・フォトスポットの整備 ・余呉湖観光館の改修（必要に応じて余呉支所と機能統合） ・観光客等の受入れ環境整備（駐車場、トイレの充実、休憩・情報案内スペース） ・今後の利活用を踏まえた案内看板の更新・設置 ・森林等における遊歩道の整備、充実 | — | |
| ③ | ウディバル余呉（レクリエーション拠点） | <ul style="list-style-type: none"> ・施設の改修及び防寒対策（電源設置、洗い場の給湯等） | <ul style="list-style-type: none"> ・他拠点施設の利用者を対象とした森林文化センターの大浴場開放 | |
| ④ | 八田部発生土受入地（自然体験拠点） | <ul style="list-style-type: none"> ・各拠点の位置づけに応じた施設機能及び連携機能を強化 | — | |
| ⑤ | 北海道（森林散策ゲートウェイ×生活文化発信拠点） | <ul style="list-style-type: none"> ・手洗い、水道（上下水道）整備 ・森林ガイド施設・休憩場所（駐車場・休憩スペース）整備 ・生活文化発信等の地域活動に利用可能な広場スペース ・ツアー拠点として利活用可能な芝生広場の整備 ・防災ヘリポート設置 ・高時川への親水施設整備 | <ul style="list-style-type: none"> ・森林等情報発信 | |
| ⑥ | 妙理の里（滞在型学習体験拠点） | <ul style="list-style-type: none"> ・施設の改修及びサイトへの電源設置（防寒対策） ・中長期滞在が可能な設備の充実（冷蔵庫・風呂・簡易キッチン・トイレ等の設備、ネットワーク環境整備） | — | |

(参考事例)

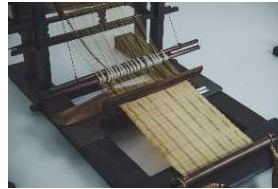
戦略的（コンセプト作成）な地域振興事例（新潟県十日町）

日本遺産「究極の雪国とおかまち-真説！豪雪地ものがたり」

豪雪に育まれてきた歴史・文化を「着もの」「食べもの」「建もの」「まつり」「美」の5つのものがたりとしてとりまとめブランド化し、それぞれを観光振興に活かしながら歴史・文化の維持継承を推進

豪雪地の着ものがたり

縄文時代にまでさかのぼるといわれる編布「アンギン」、古代から越後で生産されていた上質な青芋織物「越後布」、江戸時代この地域が主産地として栄えた「越後縮」、そして明治期から生産の主流になった絹織物。豪雪地の地域性を生かし、現在の十日町市のきもの産業に続く着物のものがたり。



豪雪地の食べものがたり

豪雪地の長い冬、人々は秋までに採れた食料を備蓄して活用しました。代表的な保存食「ツケナ」（野沢菜漬）は、春先に発酵が進んで酸味が増すと、塩抜きして煮込み「ニーナ（煮菜）」に生まれ変わります。厳しい冬を生き抜くために人々の知恵が育んだ食文化のものがたり。



豪雪地の建てものがたり

大切な家を雪から守るため、急勾配の茅葺屋根や農家の「中門造り」、梁を伸ばして深い軒先をつくる「せがい造り」などの建築様式が発達しました。先人たちの雪との闘いの歴史を表す建物のものがたり。



豪雪地のまつりものがたり

十日町市では、「婿投げ」など雪国ならではの伝統行事が行われています。厳しい冬の暮らしを明るくしようと生まれた「十日町雪まつり」など、白い冬を鮮やかに彩る祭りのものがたり。



豪雪地の美ものがたり

棚田が広がる里山や、ブナ林の景観は人々の営みから生まれました。5,000年の時を経てなお圧倒的な存在感をもつ「火焰型土器」や着物など、冬の静寂の中で研ぎ澄まされた雪国の人々の感性から生み出された美のものがたり。



余呉地域で想定するゲートウェイ機能のイメージ

- 余呉地域の玄関口（国道365号沿道）に位置する余呉支所にゲートウェイ機能（情報発信・案内誘導）を充実させ、地域内の歴史・文化、レクリエーション、自然体験・学習等に係る施設や名所へ周遊を促す
- 地域内でも比較的集客力が高い余呉湖と相互連携を図り『集客』と『周遊促進』を促す。

